

四国初 水疱性角膜症に対する培養ヒト角膜内皮細胞移植を実施 ～新たな治療法を開始～

<報道概要>

徳島大学病院眼科は、培養ヒト角膜内皮細胞製品「ビズノバ®(注 1)」を用いた培養ヒト角膜内皮細胞移植(注 2)を、令和 8 年 8 月に四国で初めて、水疱性角膜症患者に対して実施しました。手術は合併症なく予定通り終了し、術後経過も良好です。

水疱性角膜症は、角膜内皮細胞の減少により角膜が濁り、視力が低下する疾患です。これまで、主にドナー角膜を用いた角膜移植が行われてきました。

今回、徳島大学病院眼科は、所定の施設基準及び執刀医基準を満たした上で、四国で初めて培養ヒト角膜内皮細胞移植を実施しました。本治療は、ドナー角膜から得た角膜内皮細胞を培養して増やし、患者の眼内に注入する新しい治療法です。今回用いた「ビズノバ®」は、水疱性角膜症を対象とした培養ヒト角膜内皮細胞製品です。従来のようにドナー角膜組織そのものを移植するのではなく、培養した細胞を移植することが本治療の大きな特徴です。

また、一つのドナー角膜から得られた細胞を培養し、複数の患者の治療につなげることができるため、ドナー角膜不足という角膜移植医療の課題の解決にも寄与することが期待される治療です。

徳島大学病院眼科では、今後も本治療を含めた高度な角膜医療を安全に提供し、徳島県及び四国における水疱性角膜症治療のさらなる充実に取り組んでまいります。

なお、本件については、後日、徳島大学定例記者会見にて発表を行う予定です。

<用語解説>

注 1)ビズノバ®:

培養したヒト角膜内皮細胞を有効成分とし、水疱性角膜症の治療に用いられる細胞製品。

注 2)培養ヒト角膜内皮細胞移植:

培養した角膜内皮細胞を患者の眼内に注入し、角膜の透明性の回復を図る治療法。

お問い合わせ先

徳島大学病院眼科

診療科長／教授 三田村 佳典

助教 南 佳佑

電話番号 088-633-7163

メールアドレス minami.keisuke2[アット]tokushima-u.ac.jp

※メールを送信される場合には、[アット]を@に置き換えてください。